

第4期帯広市中心市街地活性化基本計画（原案）の概要

1 計画概要

○ 計画策定の目的

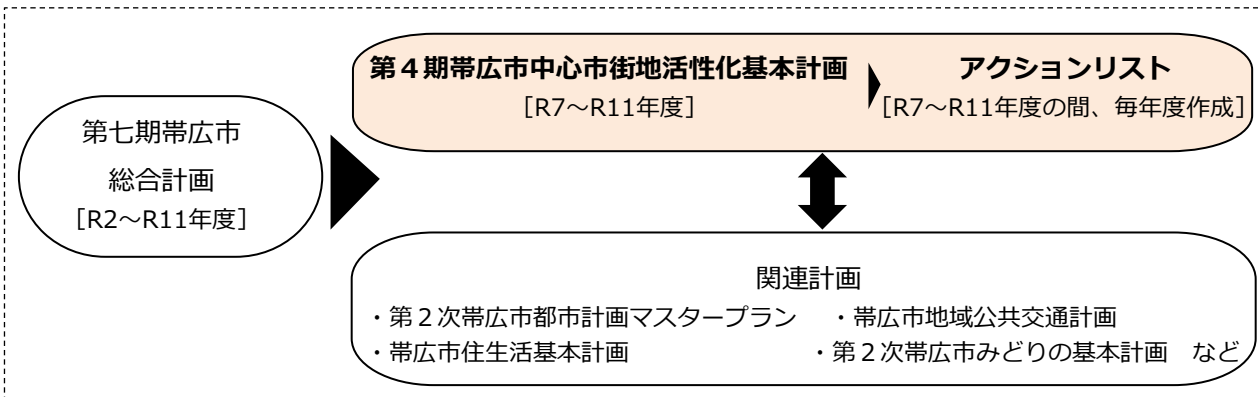
中心市街地は、公共交通や商業・行政・金融機関等が集積した、地域の活力を象徴する「都市の顔」であり、地域の発展に重要な役割を担っている。

今後も、地域の更なる魅力向上とにぎわいの創出を図るため、次期計画を策定することで、目指す中心市街地の姿や目標を地域で共有し、事業者や団体、関係機関等の多様な主体と連携しながら、中心市街地活性化に向けた取り組みを推進する。

○ 計画期間

令和7年4月～令和12年3月（5か年）

○ 計画の位置づけ



○ 計画区域

約140ha（第3期計画と同じ）
※太線の枠内が中心市街地の区域

＜中心市街地の境界＞
下記に囲まれたエリアを
中心市街地とする

・東端界

大通り東仲通り

・西端界

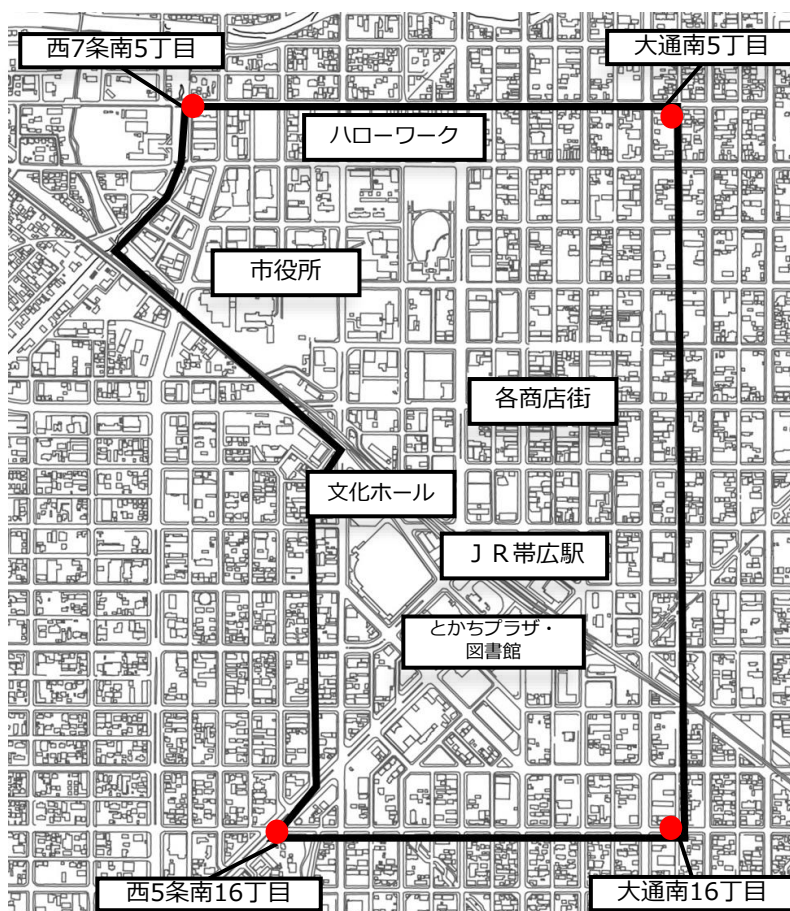
西5条西仲通り、ウツベツ川

・南端界

南16丁目線、JR芽室本線

・北端界

南4丁目線



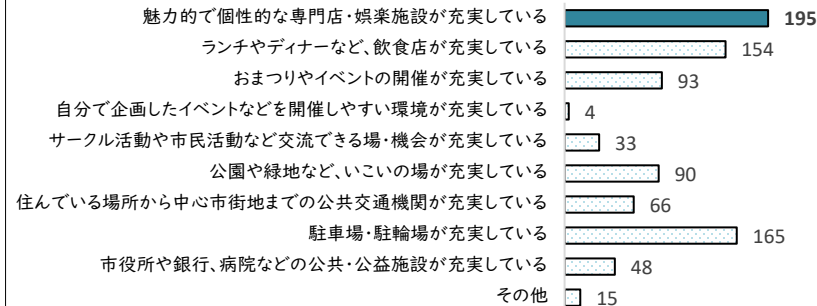
2 中心市街地活性化の課題

1 にぎわい

- 中心市街地へ行きたくなる「目的・機会」をつくり、人々の交流によるにぎわいを生み出すことが重要

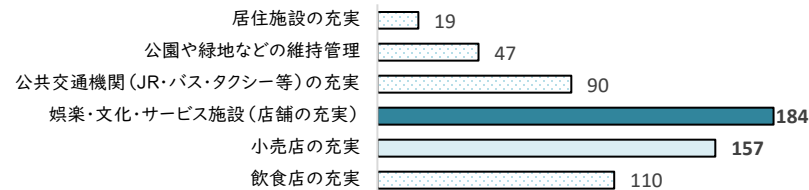
＜市民アンケート＞

- 中心市街地に行きたくなる条件
（最大3つ選択 総回答数＝863）



「魅力的で個性的な専門店・娯楽施設が充実している」が約6割（195人/325人）

- 今後の中心市街地活性化に重要なこと
（最大2つ選択 総回答数＝607）



「娯楽・文化・サービス施設（店舗の充実）」が約6割（184人/325人）
「小売店の充実」が約5割（157人/325人）

＜関係団体ヒアリング（中心市街地活性化に必要なこと）＞

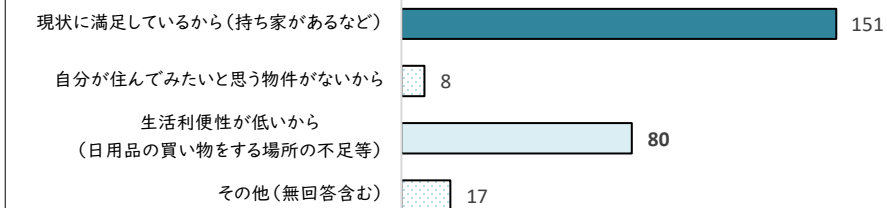
- 「新たなイベント」「定期的に継続開催されるイベント」に加え、「人と出会える交流の場」をつくる

2 まちなか居住

- まちなか居住者を維持・拡大するために、居住施設や居住環境を充実していくことが必要

＜市民アンケート＞

- 中心市街地に「住みたい/住み続けたい」と思ったことがあるか
約8割（256人/325人）が「思ったことがない」と回答
→その理由



「現状に満足しているから（持ち家があるなど）」に次いで、「生活利便性が低いから」が多い（80人/256人）

3 持続可能なまちづくり

- 中心市街地で活動する担い手の創出・育成や、担い手がつながり連携・協力するような動きを促進していくことが必要

＜関係団体ヒアリング（中心市街地活性化に必要なこと）＞

- 新しい担い手や学生等の若者の、まちづくりへの参画
- 新しくやる気・熱意のある人がでてくること

3 目指す姿・基本的な方針

目指す姿：みんなでつくる、笑顔ひろがる 心地よいまちなか



基本的な方針 1 人がつながり、誰もが行きたくなるまちづくり

中心市街地へ行きたくなる「目的・機会」を増やしていくため、ハード・ソフト両面の充実を促進し、様々な目的を持った人が日常的に来街し、集い、交流することで、にぎわいと魅力のあるまちなかを目指す。
中心市街地に集う来街者や商店主、イベント主催者、観光客等の多様な人々が交流を深める機会をつくり、つながりを強めていくことも重要となる。

取り組みの方向性 1：魅力的な目的地の形成
取り組みの方向性 2：恒常的ににぎわいの創出

基本的な方針 2 人がつながり、住み続けたいまちづくり

中心市街地は、小売・飲食等の商業機能に加え、公共・公益施設、公共交通機関等の都市機能が集積しており、高齢者や学生、小さな子どもがいるファミリー層等にとっても住みやすい地域である。この中心市街地の特性を生かし、快適で魅力的な居住環境の整備や、まちなか居住の魅力を高めるイベント等の取り組みを促進することで、まちなか居住人口の更なる拡大を図っていく。

取り組みの方向性 1：居住施設の充実
取り組みの方向性 2：居住環境の充実

基本的な方針 3 未来へつなぐまちづくり

今後の中心市街地活性化には、中心市街地が交流の場、子育ての場、福祉の場、学びの場等、多様な人々が輝く場として機能すること、またそうした人たちのつながりをつくり、新たな活性化の取り組みを生み出していくことが重要である。このほか、域内だけではなく、域外の多様な人材とともにまちづくりを進めて行くことも、活性化の選択肢の一つと考えるもの。

取り組みの方向性 1：主体同士のつながりの強化
取り組みの方向性 2：多様な主体のまちづくりへの参画

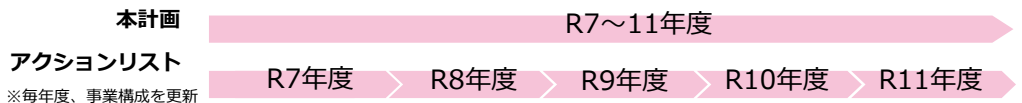


資する事業を「アクションリスト」にとりまとめ

4 アクションリスト

○ アクションリストとは

第4期計画では行政や民間事業者、市民ボランティアなど多様な主体が中心市街地活性化のために取り組む事業や活動を『アクション』と呼称する。
計画の基本的な方針に資する具体的な「アクション」を年度ごとに募集し、とりまとめたものを「アクションリスト」として公開していくもの。



5 目標指標・関連数値

○ 目標

中心市街地の滞在人口数（年度における1日平均）を増やす

○ 目標指標

目標指標	基準値（R5年度）	目標値（R11年度）
中心市街地の滞在人口数※（年度における1日平均）	155,925人	227,000人

※スマートフォンのアプリ等から取得する位置情報（GPS）データを活用し算出するもの

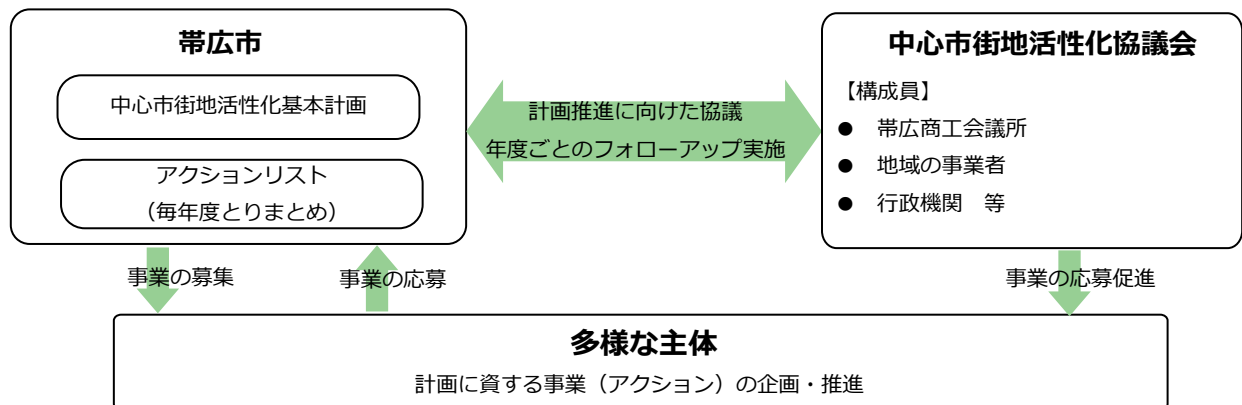
○ 関連数値

目標指標に加え、中心市街地の現状を把握するため、基本的な方針ごとに設定するもの

基本的な方針	関連数値	参考値（R6年度）
人がつながり、誰もが行きたくなるまちづくり	歩行者通行量 a 平日昼間 9～17時 b 平日+休日 9～20時	a 11,218人 b 40,519人
人がつながり、住み続けたいまちづくり	まちなか居住者数	2,667人 (令和6年9月末)
未来へつなぐまちづくり	アクションリスト掲載事業数	-

6 推進体制

計画の推進にあたり、帯広商工会議所が事務局を担う帯広市中心市街地活性化協議会や中心市街地で計画に資する事業を行う多様な主体、行政、関係機関等が連携し取り組みを進めていくもの。



7 今後のスケジュール

	令和 6 年		令和 7 年		
	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
経済文教委員会	○ 原案報告		○ 計画案報告		
パブリックコメント	← 募集期間 →				
中心市街地活性化協議会					

計画策定